

第 1 3 回

川でつながる発表会

かいさいほうこく
開催報告



● 平成 30 年 2 月 11 日 (日)

● ラーク所沢

新河岸川流域川づくり連絡会



開催概要

趣旨

新河岸川流域では、総合治水対策や水循環再生の一環として行っている流出抑制施策や自然環境の保全などの取り組みやいい川づくりに向けた取り組みに関して、行政や市民団体、流域住民が情報・意見交換をする場として、「新河岸川流域川づくり連絡会」を開催しています。川でつながる発表会では、「新河岸川流域川づくり連絡会」の活動の一環として、流域内の学生や市民団体が行った、治水や水環境を対象にした水にまつわる様々な学習・研究、ボランティアなどの活動の成果を発表していただいています。この取り組みは、学生たちが感じたり、考えたりしたことを知り、様々な世代が交流や意見交換を行うことで、河川に関する取り組みに対して一人ひとりができることを考えるきっかけをつくり、総合治水や水循環再生の取り組みをより一層普及させていくことを目的として行っています。

■開催日：平成30年2月11日（日）10：00～16：00

■開催場所：発表会会場・交流会会場 ラーク所沢

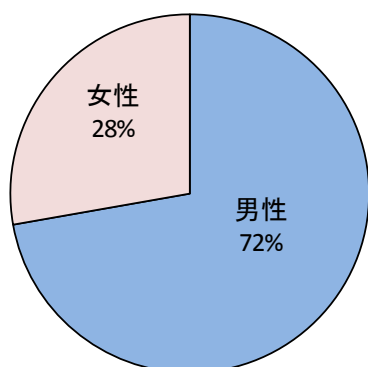
■主催：新河岸川流域川づくり連絡会

■参加人数：約80人

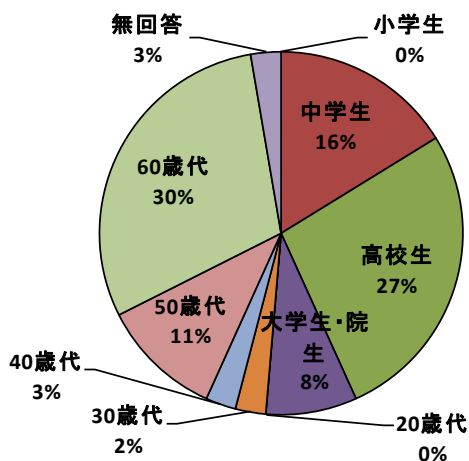
参加者構成比：

37人（アンケート回答者）

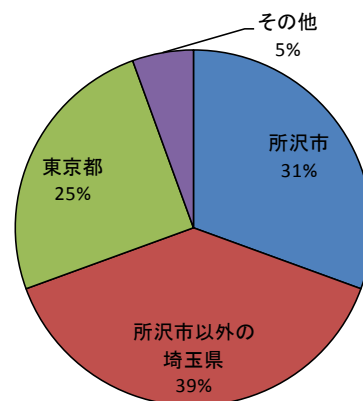
性別



年齢



住所





■当日プログラム

時間	内容	当日の様子
10:00	開会あいさつ	午前の部（現地見学会）の開会に先立ち、荒川下流河川事務所調査課長より、「一人ひとりが川について、より考えていただける場になれば良いと考えております。よろしくお願いいたします。」という挨拶がありました。
10:10	現地見学会	今年の現地見学会は、砂川堀雨水幹線（下富調整池）、多福寺、大井弁天の森の3つを対象に行いました。また、バス移動中では、所沢市の職員より、しんぶん里川（第84号）の特集に記載の河川に関する取り組みについて説明がありました。参加者は興味を持って話を聞き、説明後は様々な質問が飛び交っていました。 
13:00	あいさつ	 午後の部（発表会・交流会）の開会に先立ち、荒川下流河川事務所長より、「発表内容、パネル展示などを通じ、人とも通じ合って、自分の活動に反映していただければ良いと思っております。」という挨拶がありました。
	発表会	発表会の前半は、自由学園男子部高等学校、埼玉県立川越女子高等学校、早稲田大学理工学部より発表がありました。主に、新河岸川流域における生物の生態や分布、狭山丘陵や三富新田の特性などについて発表がありました。 
14:00	発表会	発表会の後半は、所沢市立上山口中学校、法政大学水文地理学研究室より発表がありました。主に、新河岸川流域を対象とした水質調査に関する結果報告や今後の課題などについて発表がありました。 
14:30	交流会	来場者に新河岸川流域における水循環や総合治水に興味を持っていただくため、学校、市民団体、行政などが作成した力作のパネルの展示がありました。 さらに、法政大学水文地理学研究室による水質調査を体験するブース、総合治水を題材とした紙芝居、新河岸川流域における歴史やできごとを記憶から呼び起こし、情報を流域の地図上に集約して、共有する「流域誌をつくろう!」といった様々な企画を実施し、来場者の多くの方々に水循環や総合治水について理解を深めていただきました。  
15:20	クイズ答え合わせ/表彰状授与/総括	荒川下流河川事務所長より、各発表校の代表者へ表彰状が授与されました。表彰状を受け取った後は、みなさんととても満足そうでした。最後に新河岸川水系水環境連絡会より、「いろいろな人たちと交流できる場を設けていただいて、非常にありがたく思っております。本日は、お疲れ様でした」という挨拶がありました。 
16:00	閉会	
	記念撮影	毎年恒例の記念撮影は、学校や世代を越えてつながる一体感を感じさせる一コマでした。発表会にご参加・ご協力いただいたみなさま、どうもありがとうございました。 



発表校紹介

 じゅうがくえん だんしぶ こうとうか
 ■自由学園 男子部 高等科■

 たてのがわ い せいぶつたようせい してん かんが
 立野川の生きもの ～生物多様性の視点から考える～


自由学園男子部高等科からは、川管理グループの日々の活動の様子や立野川の紹介、底生生物の調査結果の報告がありました。具体的には以下の説明がありました。

『自由学園男子高等部の川管理グループでは、学園内を流れる立野川の水温・流量などの測定、立野川周辺の草刈りや除草、生物の調査、池の管理などを行っています。四季ごとの特徴に着目すると、春は生きものが動き始める時期ですが、立野川では水が溢れていることも多いです。夏は草刈りや水草の管理に忙しく、多くの生きものに会えます。秋は1年で最も流量が多い時期です。冬は湧水の水温が外気温よりも高くなっています。立野川で見られる魚として圧倒的に多いのはタカハヤですが、時に川にいるはずのない金魚や改良メダカも確認されます。こうした状況は本来の生態系に影響を及ぼすため、望ましい環境ではありません。また、希少生物であるホトケドジョウに一度に数十匹も出会ったことには驚きました。立野川で底生生物の調査を行ったところ、特定外来生物であるアメリカザリガニとオオカワチシャが確認されました。オオカワチシャの繁茂は数年前から立野川で大きな問題となっています。また、アメリカザリガニについては、有効な活用法としてザリガニ料理を作ってみました。しっかりと加熱するなど、調理法に注意点はありますが、エビに似た風味で美味しかったです。』

 さいたまけりつかわごえじょしこうとうがっこう
 ■埼玉県立川越女子高等学校■

 しん がしがわしゅうへん かせん がいらいせいぶつ そく ざいらい ぶんぶちょうさ
 新河岸川周辺の河川における外来生物カワリヌマエビ属・在来ヌカエビの分布調査


埼玉県立川越女子高等学校からは、新河岸川周辺に生息するカワリヌマエビ属・在来ヌカエビについての調査結果が報告されました。具体的には以下の説明がありました。

『カワリヌマエビ属についての調査方法1として、エビを3人で5分間採集し、水温・pHのデータを記録します。その後実験室で各個体から形態的特徴を見て外来・在来のエビに分け、1個体ずつ別々に70%エタノールに浸して保存しました。外来と在来の形態的違いは棘の有無により判別できます。調査方法1は合計22地点で行いましたが、そのすべての地点で外来エビが分布している一方、在来エビは4地点のみでしか確認できませんでした。このことから、在来種の保護が必要であると考えました。また、調査方法2として、2015年より学校付近の新河岸川源流で行っている採集を継続しました。この結果を基に、外来・在来ごとの体長別個体数の割合を整理すると、夏場はそれほど違いが無いのに対し、冬場は在来で平均体長が長いことがわかりました。このことから、外来種は季節に関係なく、様々な体長の個体が採取されることが、外来エビの非常に長い期間の繁殖に起因していると考えました。在来エビは幼個体が採取されず、成長の段階によって住む場所が違う事が予想されるため、今後の調査の継続と在来種の繁殖場所・幼個体の生息場所の発見などに努めていきたいと思います。』



わ せ だ い が く り こ う が く ぶ
■早稲田大学理工学部■

さ や ま お か と こ ろ ざ わ そ う き ば や し か わ
狭山丘と所沢と雑木林と川

た る い ど が わ げ ん り ゅ う ぶ か ん よ う げ ん そ う き ば や し ほ う が さい せい
樽井戸川源流部の涵養源である雑木林の萌芽再生



早稲田大学理工学部からは、狭山丘陵や所沢の歴史、雑木林の伝統的利用形態や萌芽の種類、順応的管理について発表がありました。具体的には以下の説明がありました。

『狭山丘陵は首都圏における緑の孤島と呼ばれ、人が立ち入ることが少ないため、多くの動植物が安心して生息する場所となっています。今回の会場となっている所沢市は武蔵野台地にあるため土壌は貧栄養でしたが、1964年に三富新田が開墾され、雑木林の落ち葉による堆肥づくりによって土地が改良されたことで、畑作物の量が増加した歴史を持っています。三富新田では、伝統的利用形態として適度な攪乱による持続可能な利用が行われてきました。林は緑のダムと呼ばれ、早稲田大学内の湿地では降った雨の89%は一度地下水として蓄えられる涵養の役割を果たします。野生生物を管理していく場合は、順応的管理が有効です。情報が不確実で、絶えず変動し得る非定常系かつ種間相互作用を持つ複雑な系であることを認識することは重要で、さらに当初の予測が外れる事態を想定してあらかじめ管理システムに組み込んでいくことが必要となります。また、これらの結果を常にモニタリングすることでその結果に合わせて対応を変えるフィードバックの考え方に基づく管理を行い、常に学ぶ姿勢を持って更なる情報の蓄積を図っていくことが順応的管理において大きな役割を果たします。』



コメンテーターによるコメント

① 自由学園男子部高等科に対するコメント

黒目川流域川づくり懇談会より

- ・底生生物を調べていて、前回とは違ったジャンルで色々広がってきていると思いました。
- ・アメリカザリガニを食べたということですが、ただ、駆除するといって殺してしまうだけではなく、食べて有効活用の方法を見つけるということもよいことだと思いました。

和光自然環境を守る会より

- ・川を持っている学校など全国にそうそうないので、教育環境が抜群であると思いました。
- ・発表を聞いていて、ある意味、管理をしているように感じました。

② 埼玉県立川越女子高等学校に対するコメント

黒目川流域川づくり懇談会より

- ・2015年からずっと継続して調べていて素晴らしいと思います。
- ・在来のヌマエビをみつけて、季節によって違うという話がありましたので、それを突き詰めていっていただきたい。卒業しても後輩の方たちに繋げてほしいと思います。

和光自然環境を守る会より

- ・水がきれいか、だんだん汚れていくかということで外来種が蔓延していると思いました。河川にきれいな水が流れていれば外来種が蔓延しない状況にできたのではないかと思います。

③ 早稲田大学理工学部に対するコメント

黒目川流域川づくり懇談会より

- ・萌芽再生の話など、専門的なお話を聞けて、非常に参考になりました。
- ・棚田と対象区を用いた湿性植物のグラフが素晴らしかったです。田んぼだけではなく他のところでも使えるものだったので、私たちも考えていきたいと思いました。

和光自然環境を守る会より

- ・発表を聞いて、人間が手を加えていかなければ生きていけない、よい環境を維持できないのではないかと感じました。



ところざわしりつかみやまぐちちゅうがっこう
所沢市立上山口中学校

やなせがわ すいしつ かんきょう
柳瀬川の水質と環境



所沢市立上山口中学校からは、柳瀬川の水質と環境に関する調査結果について発表がありました。具体的には以下の説明がありました。

『柳瀬川は埼玉県および東京都を流れる一級河川で川の長さは約 26.8km あります。まず、柳瀬川の水質を調査するため、生活排水の流れ出ている場所を起点として上下流に 3 地点を設置し、各地点の COD を計測しました。その結果、最も汚れていたのは生活排水が流れ出ている地点で、川の水は流れれば流れるほど綺麗になっていることがわかりました。次に、狭山湖～安松橋までの 10 か所の橋で COD の計測を行いました。その結果、柳瀬川の水はより上流のほうが綺麗であることがわかりました。その理由は、上流部には生活排水が流れ込まないためであると考えられます。最後に、ある 3 地点において 7 年前の写真と現在の写真を比較したところ、7 年前に比べてごみの量が減っており、川清掃などボランティア活動によって川が綺麗になっていることがわかりました。以上のことから、これからの課題は柳瀬川全体を綺麗にすることであると考えます。そのために、食器用洗剤や油などの生活排水をそのまま流さないこと、洗剤を使いすぎないことなど、自分たちができることから始めていきたいと思います。』

ほうせいだいがく すいもん ち り がくけんきゅうしつ
法政大学 水文地理学研究室

みちか みずかんきょういっせいちようさ すいしつぶんせきけつか み しん がしがわりゅういき ちいきとくせい
身近な水環境一斉調査の水質分析結果から見た新河岸川流域の地域特性 (6)



法政大学水文地理学研究室からは、新河岸川の水環境や 2017 年の調査結果について発表がありました。具体的には以下の説明がありました。

『流域の水環境の変化や現状の把握、水質改善の対策をたてるには継続的な調査が必要です。そこで新河岸川流域では連絡会に属する団体で行われてきた「全国身近な水環境一斉調査」に合わせて現地調査を行い、流域の水環境と地域特性の把握を目指しています。当研究室では、今年も引き続き連絡会の協力を得て、2017 年 6 月 4 日に行われた調査で採水された水のサンプルを提供して頂き、180 地点のサンプルについて分析を行いました。測定項目は pH (水素イオン濃度)、EC (電気伝導度)、TOC (全有機炭素)、主要溶存成分で、項目毎に分布図を作成しました。pH の値は 7.0~7.4 の地点が多く、昨年に比べるとやや低い傾向でした。また、TOC は流域の南側で低い傾向が見られましたが、これは湧水が多いことに起因していると思われます。EC は不老橋、栄橋、早瀬橋で測定しましたが、栄橋と早瀬橋では調査日前の降水前後で変動の仕方に変化が見られました。これは設置していたロガーの状態が降水により変化し、その影響が EC に表れたものと考えられます。これまで新河岸川流域の水質の現状を把握するため、2013 年から 2017 年にかけて行われた一斉調査と連携し、研究を行ってきましたが、水質の悪い地点は流域内にまだ数多く存在することが明らかになりました。まだ分析できていない地点もあるので、サンプル地点を増やして、分析できていない地点をカバーできるよう、今後もより一層連絡会との連携を深めていきたいです。』



コメンテーターによるコメント

④所沢市立上山口中学校に対するコメント

不老川流域川づくり市民の会より

- ・下水らしきものが流れ込んでくる川の、上流下流それぞれ 5m ずつで水質を測っていただいたことに感心しました。自分たちも 1 年に 1 回は水質調査をしているのですが、そういう測り方をしたいと思いながら、今までしたことがない測り方でした。
- ・7 年前と現在の比較を面白く拝見いたしました。ただ、難しいですが、同じ季節で比較ができればよりよかったと思いました。

⑤法政大学水文地理学研究室に対するコメント

不老川流域川づくり市民の会より

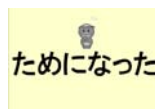
- ・一斉調査の質の悪いデータを、よくここまで突き詰めていただいたと思い、感謝しております。分析の精度がとても高いと思います。
 - ・イオンに種類が 2 つあり、指標も pH と EC だけではないことが分かりました。それによって汚染の原因が分類できるということは新しい発見でした。
 - ・今後のためにも精度のよいデータを提供していかなければならないと感じました。
-



感想カード

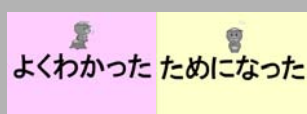
各団体の発表の後、参加者のみなさんには、事務局が準備した感想カードから発表への感想に最も近いものを選んでいただき、発表者に向けて掲げていただきました。

＜事務局が準備した感想カード＞



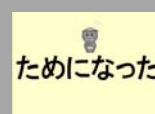
自由学園 男子部 高等科

＜多かった感想＞



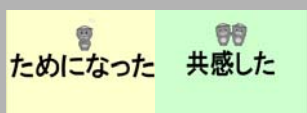
埼玉県立川越女子高等学校

＜多かった感想＞



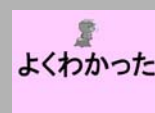
早稲田大学理工学部

＜多かった感想＞



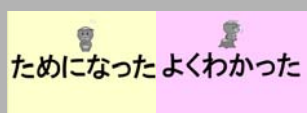
所沢市立上山中学校

＜多かった感想＞



法政大学水文地理学研究室

＜多かった感想＞





○現地見学会

砂川堀流域における治水施設や歴史など紹介！



砂川堀雨水幹線



下富調整池



砂川堀雨水幹線



多福寺



多福寺



大井弁天の森



大井弁天の森



大井弁天の森

現地見学会ではラーク所沢を出発して、砂川堀雨水幹線（下富調整池）、多福寺、大井弁天の森の3箇所を巡りました。各地点では砂川堀流域川づくり懇談会の方から説明をいただきました。また、バスの車内では所沢市役所の方々に河川事業などについてご説明をいただきました。

砂川堀雨水幹線（下富調整池）では、1954年（昭和29年）9月17・18日、台風14号により米軍基地の汚水を含んだ大量の雨水排水の流入によって氾濫し、当時の砂川堀の濁水は下富から中富、三芳村までに溢れ出し、農作物に甚大な被害を及ぼしたとの説明がありました。また、新河岸川に至る下流部の水路は当時未改修であったため、出水を一時貯留する下富ダム（調整池）を設けましたが、当初は容量不足で治水機能が発揮できず、その後に都市下水事業として水路とともに大幅に改修され、治水機能を発揮するようになったとの説明もありました。

多福寺では、三富新田が出身地の異なる農家が集まった開拓地であり、元禄9年（1696年）8月、三富新田開拓の命を出した川越藩主柳沢吉保は、菩提寺として上富に「臨済宗三富山多福禅寺」、祈願所として中富に「毘沙門社」（現毘沙門堂・別当寺：多聞院）を建立したとの説明がありました。また、多福寺には、重臣であった曾根権太夫が寄進した銅鐘（県指定文化財）や吉保直筆の「参禅録」などの什宝がある他、本堂と庫裡は、建立以来2度の火災にあい、現在のは明治3年（庫裡）、明治16年（本堂）に再建されたとの説明もありました。大井弁天の森では、砂川堀雨水幹線の南側斜面林として約3haの自然林であり、森の周辺は、以前はのどかな農地と雑木林が広がっていましたが、近年、都市化が進み、自然林が減少していくなか、古きよき武蔵野の面影を残しているとの説明がありました。

大井弁天の森と呼ばれる一帯は砂川堀が武蔵野台地を削って流れ込んでできた崖のふもとから水が湧き出していたことや、水に恵まれていなかった地域に弁財天が祀られたのは、砂川堀の水が地域の人々にいかに大切であったかを示しているなどの説明がありました。また、大井弁天の森の弁天様が、人々の信仰を集めたのは、たえず水が湧き出すだけでなく、江戸時代初期、今の上野不忍池の弁天様から分霊され、この森に祀られ弁天の水が病氣（特に眼病）によくきくとの評判が広まったことからであるとの説明もありました。



○交流会（パネル展示・クイズラリー・正しい水質調査の方法・紙芝居・流域誌をつくろう！）

水や川・環境に関わる各団体の活動を展示！交流ブースも充実！



パネル展示



正しい水質調査の方法



紙芝居



流域誌をつくろう！

パネル展示では、参加者に新河岸川流域における水循環や総合治水に興味を持っていただくため、流域内の学校、市民団体、行政、事務局がそれぞれの取り組みをまとめた力作ぞろいのパネルなどが展示されました。発表会の内容と展示されているパネルの内容から作成されたクイズラリー用紙を片手に、みなさん熱心にパネルを見ていました。

今年の交流ブースでは、法政大学の水文地理学研究室の学生が参加者に採水方法や水質分析の方法を教える「正しい水質調査の方法」に加えて、流域内で行われている総合治水対策の取り組みを理解していただくための紙芝居「ソウゴウチスイってなんだ??」を実施しました。また、自分の水との関わりを思い起こし、流域の歴史をつなぎ合わせるワークショップ企画「流域誌をつくろう！」を実施しました。子どもからご高齢の方まで世代を超えて、多くの参加者の方々が、交流を楽しまれていました。



○交流会（クイズ答え合わせ・表彰状授与・総括）

発表とパネルに関わるクイズ！発表者の活動を讃えた表彰式！



●クイズ答え合わせ

クイズの問題を作成していただいた参加校の方から、クイズの答えの発表と解説をしていただきました。問題は発表内容と交流会会場に展示されたパネルから出題されており、みなさんほとんどの問題に正解していました。

●表彰状授与

クイズの答え合わせの後には、表彰状授与式が行われました。荒川下流河川事務所長より、「素晴らしい発表をありがとうございます。川でつながる発表会ということで、川を通じて色々な交流ができたと思います。それに加えて時間軸でもつながる必要があると思いました。今この瞬間が答えではなく、この先どうやっていくかを意識しながら今取り組むことが大切だと思いますので、引き続き宜しくお願い致します。今日はありがとうございました。」と挨拶があり、各発表校の代表者に対して、表彰状の授与が行われました。

●総括

発表会の最後に、新河岸川水系水環境連絡会より、「中学生は中学生なりに自分たちの時間軸をみて調査をされていて、大学生に至っては全国をテーマに調査をされている。水質形態だけであれば、現地に行かなくてもある程度新河岸川流域の水のことがわかってくるのではないかと思います。また、発表や交流会などを通じて、世代間の交流ができていると思います。こういう機会を設けていただいて本当にありがたく思っています。本日はお疲れ様でした。」という総括をいただきました。



パネル展示の様子

◆展示団体◆

- ところざわしりつきたなかしょうがっこう
 ○所沢市立北中小学校
 きたくりつうきましょうがっこう
 ○北区立浮間小学校
 さいたまけりつかわごえじょしこうとうがっこう
 ○埼玉県立川越女子高等学校
 ふろうがわりゅういきかわ しみん かい
 ○不老川流域川づくり市民の会
 ほうじん しき
 ○NPO法人 エコシティ志木
 かわごえ みりよく そだ かい
 ○川越の魅力を育てる会

- しんがしがわすいけいみずかんきょうれんらくかい
 ○新河岸川水系水環境連絡会
 ところざわし
 ○所沢市
 ほうせいだいがく すいもんちりがくけんきゅうしつ
 ○法政大学 水文地理学研究室
 あらかわかりゅうかせんじむしょ
 ○荒川下流河川事務所

(順不同)

	所沢市立北中小学校
北区立浮間小学校	埼玉県立川越女子高等学校



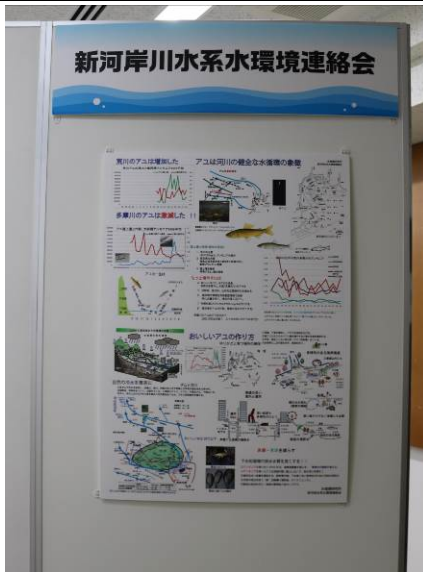
不老川流域川づくり市民の会



NPO 法人 エコシティ志木



川越の魅力を育てる会



新河岸川水系水環境連絡会



所沢市



新河岸川流域川づくり連絡会



法政大学 水文地理学研究室

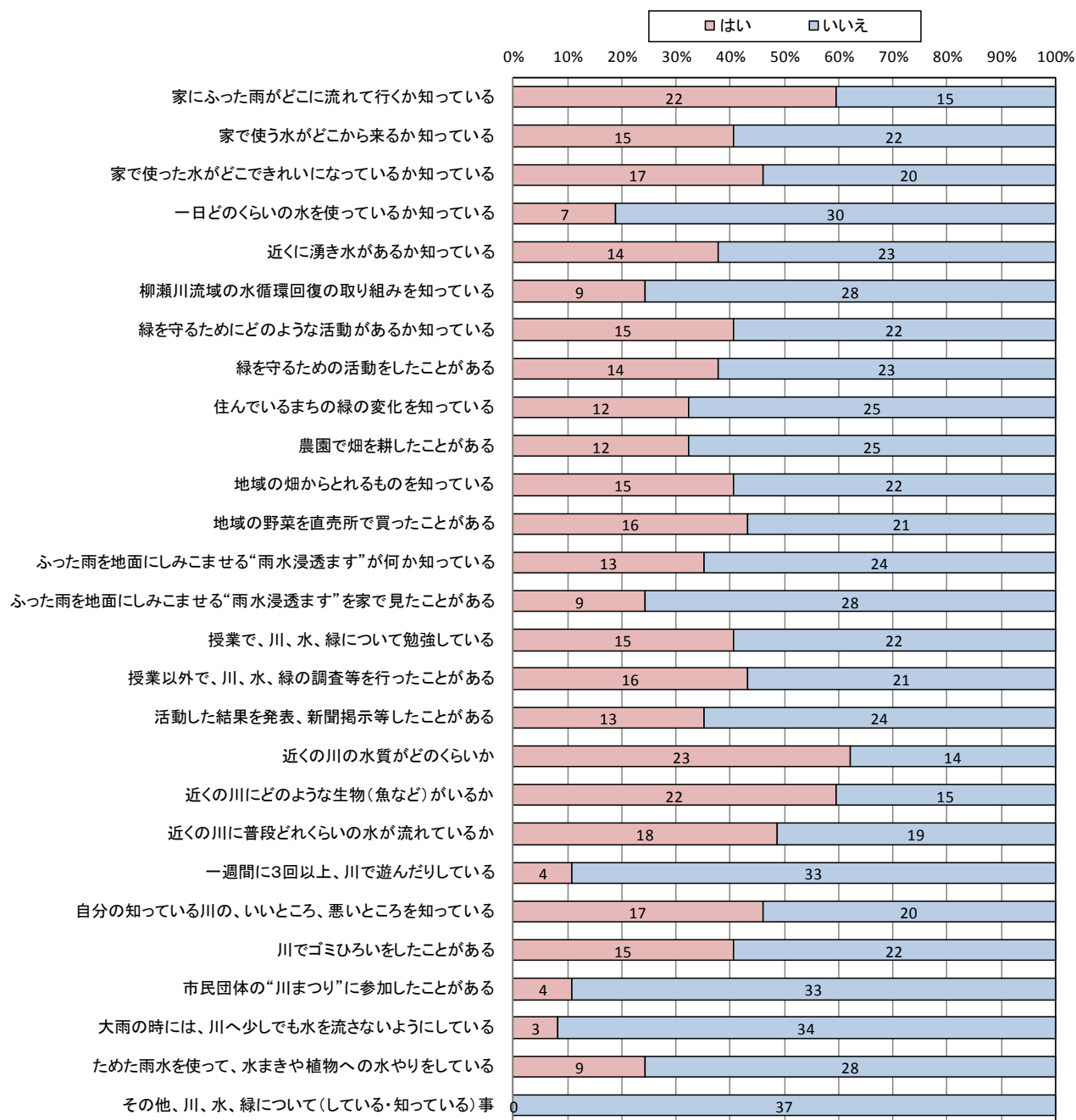


荒川下流河川事務所



新河岸川流域水循環再生検定試験（アンケート結果）

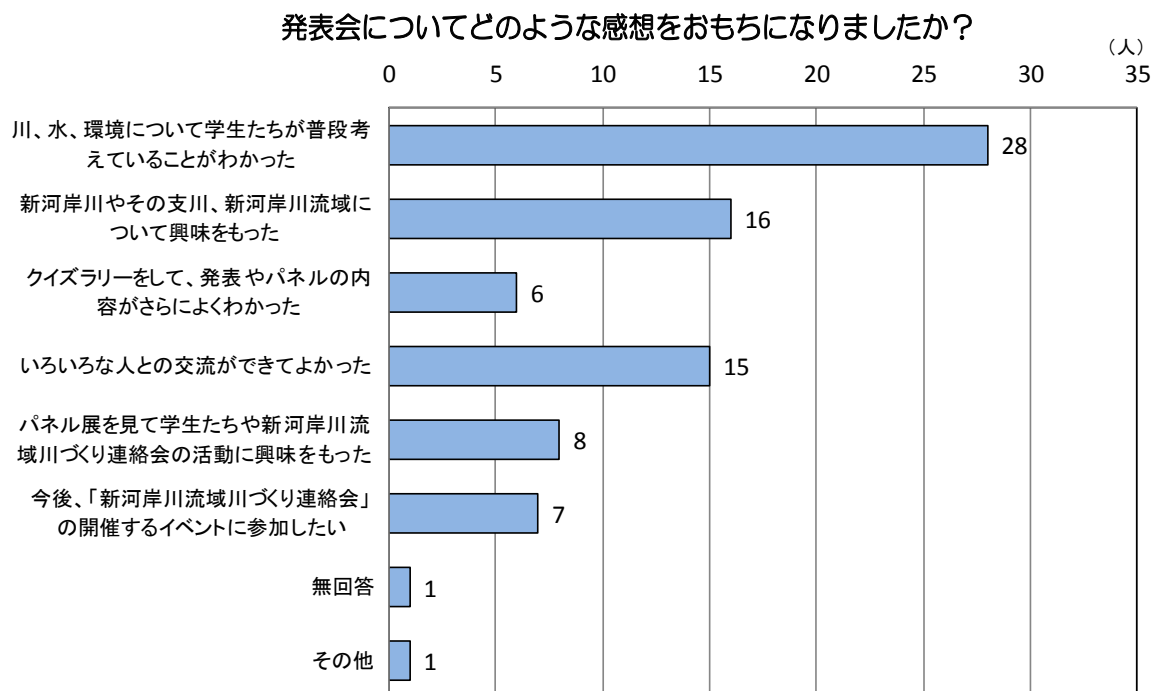
参加者の方々が、「水循環再生についてどのくらい知っているか?」、「水循環に関する活動をどのくらいしているか?」について回答いただいた「新河岸川流域水循環再生検定試験」は以下のような結果となりました。



- ① 37名の中で23名の方が「近くの川の水質がどのくらいか」を知っていました。また、22名の方が「近くの川にどのような生物(魚など)がいるか」を知っており、半数以上の方が自分の近くにある川の様子について認知されていることが分かりました。
- ② 「一週間に3回以上、川で遊んだりしている」、「大雨の時には、川へ少しでも水を流さないようにしている」などといった、川に関する取り組みをしている人は少ないことが分かりました。



発表会を終えて（アンケート結果）



◆参加者の声◆

- ただ会議室だけで生きものを調べたり報告するのではなく現場に行って生きものを調べたり報告したほうがずっと楽しいと思った。
- 普段は他の人達（特に同年代の人）が川についてどのような活動をしているのか知ることができないのでためになった。
- 各学校の発表を聞くだけでなく、交流の場で、データの取り方や、記録する意味などを学ぶことができればと思う。
- 中高生の興味深く活発な発表に刺激を受けました。
- 支流は時代、世代、地域とつながるので、この活動をつづけてください。



みなさん、本当にありがとうございました。発表会を通じて、新しく知ったことや新たなつながりを流域全体へとつなげていきましょう。

第13回

参加無料

川でつながる 発表会



第12回発表会のようす



しんがしがわりゅういきない がくせい かわ みず かんきょう
新河岸川流域内の学生が、川、水、環境
ひごろ かつどうせいか はっぴょう
について、日頃の活動成果を発表し、
せだい こうりゅう ば
さまざまな世代が川について交流する場
はっぴょうかい かいさい
として、発表会を開催いたします。

■プログラム (予定が変更となる場合があります。)

9:30	受付
10:00	開会
10:10~12:00	現地見学会
12:00~13:00	昼休憩
13:00~14:35	発表会 / 小学生~大学生による川、水、環境に関する発表
14:35~16:00	交流会 / 学校、市民団体、行政によるパネル展示、クイズラリーなど
16:00	閉会

■午前の現地見学会に参加希望の方は・・・

・申込方法:氏名・職業／学校名・住所・電話番号をご記入のうえ、下記E-mailにご送信下さい。また、裏面の参加申込FAX用紙でも受け付けています。

・申込締切:平成30年2月9日(金) (必着) (40名程度/先着順)

【申 込 先】新河岸川流域川づくり連絡会事務局

日本工営株式会社 都市・交通計画部 金田、今野

E-Mail:sogo-bosai@dx.n-koei.co.jp

FAX:03-3238-8239

※交通費は各自負担となります。
※午後の発表会・交流会に参加される方は申込の必要はありません。
※中止の場合は、当日の7:00までに荒川下流河川事務所Twitterでお知らせします。

平成30年2月11日(日)
10:00~16:00(受付9:30開始)

ラーク所沢

〒359-0047 所沢市花園2丁目2400番地の4



★会場へお越しの際は公共交通機関をご利用ください。

お問合せ

新河岸川流域川づくり連絡会事務局

■国土交通省 荒川下流河川事務所 調査課

TEL:03-3902-3220 FAX:03-3902-2346

■日本工営(株)都市・交通計画部 担当 金田 今野

TEL:03-3238-8257 FAX:03-3238-8239

2/10、11のお問合せは、
こちらにお電話ください。

川でつながる発表会主催団体

●新河岸川流域川づくり連絡会

国土交通省荒川下流河川事務所/埼玉県/東京都/さいたま市/川越市/所沢市/狭山市/入間市/朝霞市/志木市/和光市/新座市/富士見市/ふじみ野市/三芳町/
北区/板橋区/練馬区/立川市/小平市/東村山市/東大和市/清瀬市/東久留米市/武蔵村山市/西東京市/瑞穂町 不老川流域川づくり市民の会/
砂川堀流域川づくり懇談会/柳瀬川流域ネットワーク/黒目川流域川づくり懇談会/白子川と流域の水環境を良くする会/あいがも会/東川を愛する会/
エコシテイ志木/空堀川を考える会/かわごえ環境ネット/北川カッパの会/白子川源流・水辺の会/所沢源流の会/東久留米・ホテルを呼び戻す会/
東久留米ほとけどじょうを守る会/和光自然環境を守る会/NPO法人空堀川に清流を取り戻す会



第13回

川でつながる発表会

平成30年2月11日(日)

現地見学会コース

※現地見学会のコースは変更する場合があります。

水循環・治水をテーマに、砂川堀沿川における湧水に関する地域の歴史や治水対策等が分かる場所を解説付きで見学します。



■ 午前の現地見学会 参加申込FAX用紙 ■

氏 名

職業/学校名

連絡先

住 所 〒

電話番号

※ご提供いただきました個人情報につきましては、「参加者の受付」、「イベントに関する参加者への連絡」のために使用させていただきます。この個人情報は「行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律」及び「個人情報の保護に関する法律」に基づき適正に取り扱います。

【連絡先】

新河岸川流域川づくり連絡会事務局
 日本工営株式会社 都市・交通計画部 金田 今野
 TEL:03-3238-8257 FAX:03-3238-8239